

日立一高ラグビー部OB会 会報

平成17年度 学年幹事会（定例会）開催報告

今年度の事業計画等について審議するため、6月18日（土）に学年幹事会が開催されました。（出席者32人）
吉田会長あいさつの後、近藤幹事長から会議の趣旨及び経過等について以下のとおり説明があり、議案3件について協議した結果、いずれも原案どおり承認されました。（60周年記念事業等の詳細は、後日改めて御連絡します。）

《会議の趣旨及び経過等について》

昨年OB会の役員が改選され1年が経過しました。その間、役員会を中心に「OB会会員相互の交流・親睦、現役への支援強化を図るべく」検討してまいりました。主なる活動としては会報の発行、名簿の整理、蹴り初めの実施などですが、OB会員を引きつける現役の活躍に繋がる支援強化については、未だ成果は出ておりません。

少子化等の進む中で、部員確保すら難しいときこそOB会が手をさしのべ、先生・生徒と協力し日立一高ラグビー部の存続はもとより、より早い時期に古豪復活を目指したいと思っております。

いろいろな問題があり、短兵急に解決するわけにはいきませんので、本年度から定期的に学年幹事会の皆さんと協議し、OB会の活動を活性化していくことにいたします。

《議案》

1. 平成17年度事業予算（会計年度は当年6月から翌年5月までとする。）

（1）事業重点方針

- a) 現役の支援強化・・・向後3年間で現状CクラスからAクラスへ
- b) 創部60周年記念事業の推進

（2）事業予算

550,000円（会議費、会報発行（年2回）、現役への助成（4大会・合宿）、通信費等の事務費、その他）

※初年度は収入がないため、現在の残金1,305,035円（これまでの記念事業等の残金）から支出する。

2. 創部60周年記念事業計画

（1）実施時期 平成18年6月17日（土）

（2）事業内容

祝賀会開催：会員、歴代監督、特別会員及び現役部員で行う。来賓等は招かない。

記念誌発行：50周年以降の10年間の記録を中心に規約、役員・会員名簿等を掲載する。

記念試合：現役・OBともに、昔からのライバルである太田一高と対戦する。

現役への寄付：全体予算の中で、現役が必要なものを寄贈する。

（3）事業予算

OB会員から10,000円の寄付金を徴収し、その範囲内で上記事業を行い、残金はその後の事業運営費等に充当する。（祝賀会参加者は、別途5,000円を徴収する。）

（4）実行委員会

委員長：近藤、副委員長：佐藤（馨）

の設置

各担当チーフ 祝賀会：村山、記念誌：松永、記念試合：尾又、事務局：木下

その他の実行委員：武藤、黒沢、山本、深谷、関（稔）、柴田、笠井、菊池、本田、金澤

3. 年（賛助）会費徴収制度導入

（1）金額

OB会員一人当たり2,000円／年以上の（賛助）会費を徴収し、会の運営に充てる。

（2）目標額

年間事業予算550,000円／年＝2,000円×275人（275人は、OB総数600人の約46％）

（3）導入時期

平成18年6月に実施予定の、創部60周年記念事業の終了後から導入する。

現役の今年度の戦績

部員不足や学業との両立という厳しい条件の中、現役部員達は頑張って練習・試合に取り組んでいます。

ラグビー部監督の吉沢和彦先生（昭和54年度・第32回卒）に、今年度のこれまでの試合を振り返ってもらいました。

全国大会予選が終わり、3年生11人が抜け、2年生8人、1年生3人の計11名でのスタートとなった。

12月に1年生の田所・竹下が加わり、部員は13人になる。

12月の太田一高との試合では50点を取られ、大敗を喫する。

新人戦は、2年生の助っ人2人を加えて大会に臨む。しかし、3回戦の東洋大牛久高には、走力・フォワードのボール獲得に遅れをとり大敗。

【新人大会結果】

1回戦	日立一	(57 - 19)	磯原高
2回戦	日立一	(102 - 0)	荻崎高
3回戦	日立一	(5 - 70)	東洋大牛久高

新人戦が終わり、練習は400m・800m走など走力アップと、そしてウェイトトレーニングに大半を費やした。ややスタミナ・パワーの向上に成果が見えつつあるも、経験不足に不安を残しながら関東大会予選に臨む。

2回戦の常総学園高校には、前半0-5と粘りを見せたが、後半突き放されてしまった。

【関東大会予選】

1回戦	日立一	(80 - 7)	合同（取手一高、取手松陽高、牛久高）
2回戦	日立一	(0 - 46)	常総学院高

県民総体（兼）国体予選の1回戦、藤代紫水高は昨年秋の全国大会予選で16-20と苦敗を喫した相手。

昨年の雪辱をと一致団結して臨み、最後まであきらめずに戦い接戦を制した。

太田一高にも冬の雪辱をと挑んだが、前半の失点が多く、わずかの差で逃げ切られてしまった。

【県民総体（兼）国体予選】

1回戦	日立一	(22 - 5)	藤代紫水高
2回戦	日立一	(31 - 34)	太田一高

※ 今後は、秋の全国大会予選に向けて、8月上旬に菅平合宿を太田一高と合同で実施予定。

現役部員の紹介

現在現役部員は、3年生10人、2年生6人、1年生4人、マネージャー4人の計24人で活動しています。

顔写真入りで御紹介しますので、グラウンド等で見かけたときは、激励の声をかけてあげてください。

（氏名、学年、ポジション、出身中学校、抱負の順で掲載してあります。）

日立一高ラグビー部の年間活動予定

ベスト8に入るチームは、OB・父兄を交え常時20～30人以上が応援に来ていますが、わが日立一高は、わずか5人前後のOBが懸命に応援しているだけです。また、「現役部員の応援に行きたいけれど、いつ大会があるか分からない。」という声もよく耳にします。

そこで、今年度の主な大会日程等を以下に掲載しますので、今後の観戦・応戦の際の参考にさせていただきたいと思います。(既に終わってしまった大会もありますが、来年以降も概ね同じ時期に開催されますので御参照ください。)

なお、組合せ等の詳細は2～3週間前には決定しますので、事務局からも学年幹事を通して御案内しますが、茨城新聞のスポーツ欄には必ず掲載されますので、そちらにも御注目ください。

現役あつてのOB会です。OBの皆様のより多くの応援を切にお願いいたします。

4月23日(土) 関東大会県予選1回戦	10月22日(土) 全国大会予選1回戦
26日(火) " 2回戦	26日(水) " 2回戦
5月1日(日) " 3回戦	11月5日(土) " 3回戦
6日(金) " 準々決勝	9日(水) " 準々決勝
10日(火) " 準決勝	14日(月) " 準決勝
14日(土) " 決勝	19日(土) " 決勝
27日(金) 県総体(兼)国体予選1回戦	1月11日(水) 新人大会1回戦
6月1日(水) " 2回戦	16日(月) " 2回戦
7日(火) " 3回戦	21日(土) " 3回戦
11日(土) " 準々決勝	26日(木) " 準々決勝
15日(水) " 準決勝	31日(火) " 準決勝
19日(日) " 決勝	2月4日(土) " 決勝

※その他、8月上旬には菅平への遠征合宿、1月上旬(3日頃)には蹴り初めを予定しています。

あの人は今

本号から、20～30歳代・40～50歳代・60歳以上の各世代ごとに、お一人ずつ昔の思い出や、近況等の御紹介をいただくコーナーを設けました。トップバッターは、OB会前役員(監事)の大友敏勝さんをお願いしましたが、期せずして、近況報告というよりも、現在に至るまでのラグビーに関する熱い思いを語っていただきました。

ほかにも、武藤達也さん、本田浩一さんに寄稿していただきました。お忙しい中ありがとうございました。



【第5回卒の大内先輩と】
(向かって右が筆者)

「甦れ！ 日立一高ラグーマン」 大友 敏 勝 (昭和30年度・第8回卒)

起床！何をモタモタしてやがる！！ある夏合宿での早朝OBの罵声。当時(昭和30年頃)、合宿では早朝マラソンは通例で、日立一高から小木津駅手前(当時屠殺場下一現在手塚テント店付近)までの往復を走った。砂利道で小石ごろごろ、しかも素足。ときには、上草履を用いた。ある先輩は自転車で竹棒を持って気力と忍耐力を鍛錬するため後ろから大声で激励をし、何事も最後まで頑張れ・・・と。

当時の合宿は、5泊6日と記憶している。各自持参するもの。米5升、費用500円、ほか下着類等。合宿所は柔道場、炊事は2人組の輪番制(メニューは当事者に一任)。入浴は銭湯又は校内プールで？なにしろ物資面では想像を絶する時代であったと思う。

しかし、黒田・鶴巻・田沢・(故)田所・内山・朝日・(故)志賀・(故)瀬谷・鈴木(修)の各先輩が、懇切丁寧に基本の指導を含めラグビーゲームについての心構え等、心身の鍛錬を教示していただいたことは、ラグビーとともに間もなく七十路を迎える小生にとりましては、心の財産として今後も大切にしたいと思います。諸先輩とOB各位に只々感謝を申し上げます。

過日、県民総体(兼)国体予選についてOB会より案内があり、応援をしてきました。

残念ながら、対藤代紫水高戦には勝利を得ましたが、対太田一高には惜敗でした。太田一高は、かつては県下ラグビー界の御三家(日立一高、水戸農業、太田一高)としての古豪、日立一高は大御所と言われていました。時の流れ変革により、今や私立の茗溪・清真・秀英・常総の4強に代替わりか? 県立の日立一高は、近年低迷していた部員も何とか確保できるようになったとの由、○まず継続して走ることのできる体力、○集中力(心)、○球を繋ぐ、○無我、○効率、○構築(ゲームの組立)、○リーダーは?(FW・BK)、○限られた時間の勝負、○誇り、○最後まで捨てるな、○気力等の鍛錬が重要と思われた。 甦れ、日立一高ラグーマン!



【上段左から2人目が村松君、下段右から4人目が筆者(花園初出場の応援の折、大阪城にて)】

「村松 茂君を悼む」 武 藤 達 也 (昭和45年度・第23回卒)

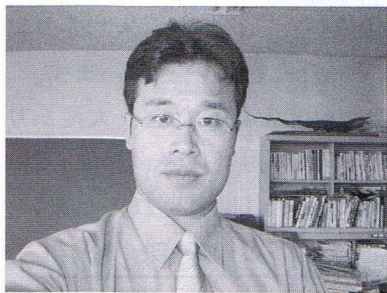
3月8日の朝早く電話が鳴り、寝ぼけまなこで電話をとると「村松茂の兄ですが、茂が昨日心筋梗塞で亡くなりました。葬儀は、山口県の防府市の葬祭場で執り行います。」との連絡、一気に目が覚め詳細を聞くと、糖尿病であったが仕事が忙しく、十分な治療をうけておらず血管がボロボロで、手の施しようがなかったとのこと。

茂は、私の2学年後輩で、家も近所にあり幼い頃から接点があった。高校入学時にラグビー部に誘ったのも私だった。器用で足が速く、ラグビーセンスもかなりのものがあり、愛嬌のある可愛い後輩であった。卒業してからは、先輩後輩の間柄というより、仲間という感覚で暇なときは連絡を取り合い行動をとともにしていた。

大学を卒業し、茨城の教職員の試験に落ちたが、山口の試験に合格し教員となるため、茨城の地を去った。その後は、結婚し帰省の間隔も広がり会う機会も減ったが、会えば麻雀、酒飲みで空白だった時間を埋めた。学校では、40歳前半で教頭に48歳で校長というスピード出世をしていた。

後日、会瀬でひとり暮らしのお袋の所へ線香を上げに行った時、「定年後は、日立に戻るから一緒に暮らそう、それまで元気でいてくれ。と言っていたのに、先に逝ってしまった。」と、泣かれた。

今、思い出してもあの愛嬌ある人なつつこい笑顔が浮かぶ。50歳の若さで逝ってしまった村松茂君のご冥福を祈りいたします。また、会報を読んだ先輩、後輩諸氏もご冥福を祈っていただければ幸いです。



「高校時代を振り返って」 本 田 浩 一 (平成2年度・第43回卒)

私は、入学したときは身体が細く、周りの友人たちにはラグビーなんてできるのかと、言われていました。一年生のときは怪我也多く、同期のメンバーよりも練習は遅れていました。焦りはしましたが、とりあえず怪我をしない身体を作ろうと思い、筋トレを続けました。

私はウィングだったのですが、当時、部員が3学年で50人近くいて、さらに同期にも後輩にも私より足が速い人間が結構いたので、レギュラー争いも大変だったのを覚えています。それで、自分なりに、自分のプレイスタイルというものを考えました。正直、センスがあるほうではなかったのですが、ボールを持ったら絶対倒れないことと、ディフェンスのときは絶対に抜かれないことを意識して練習しました。

毎日、タックルとタイヤ引きとキック処理の練習は欠かさずにやりました。私たちの年代は、オフェンスに重点を置いていたので、チームとして私の出番はあるのかと不安を抱えながらも、いつかは自分が必要になると信じて、ひたすら練習は続けました。その甲斐あって最後の大会はレギュラーで試合に臨むことができました。残念な

がら、準決勝で常総学園に敗退してしまったのですが、その努力は無駄にはなっていないと思います。(未だにその当時のことを思い出すと悔しくて仕方がないのですが・・・)

社会に出てから実感したことなのですが、勝つ喜びと負ける悔しさを知り、つらい練習を最後までやりとおしたという自信を得て、さらに、同じ思いをした仲間たちがいるということは、どんなつらい局面でも立ち向かっていく力を生み出してくれると思います。現役の皆にも努力は報われることを知って欲しいし、また、熱くなることがすばらしいことだと気づいて欲しいです。自分たちには、限界はないと信じて頑張っただけ欲しいと思います。諦めたら何も得られないので。

滑川先生、おめでとうございます。

昭和51年度から平成5年度までの18年間、日立一高ラグビー部監督として御尽力いただいた滑川正昭先生が、本年4月から茨城県教育庁の保健体育課長に就任されました。

滑川先生は、平成6～10年度と平成12～14年度にも、指導主事として県教育庁に在籍され、2002インターハイを成功に導くなど活躍されましたが、この度は磯原高校の校長を経て県本課の課長に御栄転となりました。



【40歳以上の参加者】

そこで、県内外の教え子288人と関係OBが中心となり、6月25日(土)初崎保健センターにおいて、会費制の祝賀会を開催しました。

当日の出席者は75人、欠席者からも数多くのメッセージが寄せられる中、各学年ごとに滑川先生との思い出話を披露するなど、懐かしくも楽しいひとときを過ごしました。

滑川先生の、今後ますますの御活躍と御健康をお祈りいたします。



【40歳未満の参加者】

編集後記

前回の会報から紙面を一新し、写真を載せたり親しみやすくしました。内容も監督を始めできるだけ多くのOB会員に参加していただき、親近感のあるものにしました。今号から【あの人は今】のコーナーを設けましたが、驚いたり、納得したりで、更にOB会員の和を広げていきたいと思っています。

現役部員達も吉沢監督の下、接戦を制したり、わずかの差で負けたり、悔しい思いをしながら、一生懸命頑張っております。皆様(OB・父母)の応援が、ぜひ必要だと思います。よろしくお願いいたします。

来年は、60周年記念事業が予定されておりますが、できるだけ多くのOB会員が一同に会し、久しぶりに仲間と再会できる、気楽な会になるよう考えておりますので、ぜひ楽しみにしていただきたいと思います。

最後になりましたが、【あの人は今】を始め、皆様にはお忙しい中を原稿等の御協力をいただき、大変ありがとうございました。

(幹事・会報担当代表 松永 啓)

追記：会報の年2回(12月・6月)発行を予定していたところ、6月号の発行が1か月ほど遅れてしまい、大変申し訳ありませんでした。次回の12月号は、ぜひ予定どおり発行したいと思います。

日立一高ラグビー部OB会報 第5号

発行責任者：幹事長	近藤 雅年(昭和33年 第10回卒)	木下 俊雄(昭和55年 第32回卒)
編集者：幹事	松永 啓(昭和41年 第18回卒)	深谷 充志(昭和55年 第32回卒)
	柴田 和則(昭和58年 第35回卒)	関 稔一(昭和58年 第35回卒)
	笠井 知洋(昭和60年 第37回卒)	菊池 敬(昭和62年 第39回卒)
	本田 浩一(平成3年 第43回卒)	金澤 勉(平成5年 第45回卒)

事務局：〒317-0065 茨城県日立市助川町3-7-4 木下俊雄気付

【電話】0294-21-4890 (FAX同じ)